



令和8年
7月

学校だより

「自立と感謝」

～心ゆたかに かしく たくましく～

さいたま市立大砂土東小学校

048(684)8003

令和 8 年 6 月30日発行

見守りながら

校長 石川 顕一



▲ 傘の花

登下校時になると、色とりどりの傘の花が華やかに開いています。今年の梅雨は「梅雨らしく」、昨年度と違いよく雨が降ります。しばらくうっとうしい天気につき合わなければならぬようです。お身体には十分ご自愛ください。

子どもが何かをしようとした時、あるいは何かを決めようとした時に、子どもに失敗をさせないようにと、思わず口や手を出してしまった経験はありませんか。

私たち大人は、自分の子どもに対して、一生に渡って関わり続けることはできません。関わり続けられないからこそ、子どもには自分の力で生きていける人間、つまり、自立した人間になってほしいと願うのです。

さて、自立しているとはどのようなことを言うのでしょうか。「朝は自分で起きて、言われなくても顔を洗い、朝食を済ませる。遊ぶ前に自分から宿題や課題に取り組む。遊んだら自分から片付け、整理整頓をする。」このような望ましい生活習慣が身に付いていれば十分というものではありません。望ましい生活習慣は自立のための基盤にすぎません。望ましい生活習慣を身に付けた上で、「自分の生き方ややりたいことを見付け、その実現を図ること」だと、私は捉えています。

これまで私たち大人たちに「それはやめなさい。これはやりなさい。」と、口や手を出されてきた子どもが、「ところであなたは何をやりたいの。やりたいことを自分で見付けなさい。」と急に言われても、困惑するばかりです。

まずは、望ましい生活習慣を身に付けるといふ基盤の部分大切にさせるとともに、やりたいと思うこと（大きなことでも、小さなことでもよい）を私たち大人が口や手を出さずにやらせてあげましょう。大人たちはやりたいことがより深まるように、見守りながら応援していきましょう。応援してもらうと、不思議なものでやりたいことがどんどん生まれてきます。行き詰まってしまった時に、そっと支援をすればいいのです。これを繰り返す中で、自立した人間がはぐくまれていくのです。

子どもたちが「自分の生き方ややりたいことを見付け、それを実現」することは、Well-being な（幸せな）人生そのものです。学校と家庭と地域が連携し、子どもたちをしっかりと見守っていきましょう。それが私たち大人の役目です。